

次世代大型ベンディングマシン「HRB」シリーズの販売を開始 長尺、薄板から厚板まで対応可能



「HRB-3504」

株式会社アマダ(神奈川県伊勢原市、代表取締役社長執行役員:山梨 貴昭)は、厚板・大物の曲げ加工や深曲げを可能にすることで、加工領域を拡大した次世代大型ベンディングマシン「HRB」シリーズの販売を9月5日に開始します。

今回「HRB」シリーズは、新たに350トン・3メートルから600トン・7メートルまでの長尺、中厚板に対応した大型シリーズを7機種拡充しました。社会インフラを支える鋼材加工や、厚板加工の現場に対応できるようになったほか、独自のACサーボ・モーターと双方向ピストンポンプによるハイブリッド・ドライブシステムで環境にも配慮します。

NC装置は「AMNC 3i」を搭載。加工プログラムを容易に作成できる「LITEモード」により、スキルや年齢、性別、国籍などにかかわらず簡単に曲げ加工を可能にしました。

さらに、厚板用の角度センサー「Bi-L II」や、バックゲージに「ヘビーワークセンサー突き当て」をオプションとして採用することで曲げの精度不良を削減し、安定した加工を実現します。

現在、板金加工業界では人手不足が深刻化しており、技術者の高齢化や次世代オペレーターの育成に関する問題に直面しています。また、世界的な環境意識の高まりを受け、カーボンニュートラルへの取り組みも急務となっています。アマダは、商品とテクノロジーにより板金加工業界の課題を解決するとともに、お客さまとこれからのモノづくりを探求しイノベーションを創造してまいります。

